



JUVIG 2022

単孔式胸腔鏡手術研究会

# 第四回例会 抄録集

The 4th Annual Meeting of the Japanese Uniportal VATS Interest Group

日時: 令和4年10月6日 18時15分～20時15分

会場: パシフィコ横浜 501号室(第2会場)

世話人: 小田 誠

(新百合ヶ丘総合病院呼吸器センター センター長)

主催: 単孔式胸腔鏡手術研究会



単孔式胸腔鏡手術研究会  
JUVIG 2022第四回例会プログラムアジェンダ  
The 4th Annual Meeting of the Japanese Uniportal VATS Interest Group

日時：令和4年10月6日 18時15分～20時15分

会場：パシフィコ横浜 501号室（第2会場）

世話人：小田 誠（新百合ヶ丘総合病院呼吸器センター センター長）

開会宣言  
ご挨拶

第四回例会世話人 小田 誠  
第75回日本胸部外科学会定期学術集会会長 中島先生

開会

○18:18～18:26

JUVIGの現況報告

単孔式胸腔鏡手術の現況と今後の展望

会長 森川 利昭  
常任理事 平井恭二

○18:26～19:28

テーマ1：胸腔鏡技術認定制度と関連した演題

（ヒヤリハットから学んだこと、右肺上葉切除術での安全な手技の確立）

座長：佐藤 寿彦 千葉 真人

指定演題

単孔式肺葉切除を安全に簡単に施行する工夫

福岡大学 佐藤 寿彦

—以下 各発表5分・討論2分—

1-1

当科における単孔式胸腔鏡下右肺上葉切除術

埼玉病院 後藤 英典

1-2

単孔式右上葉切除術におけるPitfall

神戸大学 田根 慎也

1-3

安全技術認定制度を見据えた胸腔鏡下肺癌手術における当科の取り組み

金沢大学 吉田 周平

1-4

胸腔鏡安全技術認定を振り返って

国立病院機構高知病院 日野 弘之

1-5

胸腔鏡安全技術認定制度に提出した2例の検討

関西医科大学総合医療センター 金田 浩由紀

1-6

U-VATSでの当院の工夫

北海道がんセンター 青柳 美穂

1-7

単孔式手術でのヒヤリハット

長崎大学 町野 隆介

1-8

右肺上葉切除における上中葉間分葉不全処理時のナイトメア症例：

単孔式における安全確実な手術の工夫

千葉県済生会習志野病院 溝渕 輝明

○19:28~20:09

テーマ2：将来に向けた単孔式手術の経験（RATS単孔式、区域切除など）

座長：須田 隆 本間 崇浩

指定演題

単孔式手術の現状と今後の展望

藤田医科大学岡崎医療センター 須田 隆

—以下 各発表5分・討論2分—

2-1

自然気胸に対する剣状突起下单孔アプローチで施行したブラ切除の当院導入の1例

NTT東日本札幌病院 八木 優樹

2-2

単孔式複雑区域切除におけるアプローチ肋間と区域間切離の工夫

神戸市立西神戸医療センター 本山 秀樹

2-3

MICS用DeBucky鑷子とMonopolar電気メスによる単孔式胸腔鏡下肺区域切除

愛媛大学 佐野 由文

2-4

区域間腫瘍に対して、RFIDマイクロチップ留置後に実施した単孔式左下葉区域切除術

黒部市民病院 本間 崇浩

2-5

術前操作でマーキングが完遂するVAL-MAPの単孔式胸腔鏡下手術における利点

—S7+S10区域切除例における考察

東京大学医学部附属病院 叢 岳

本研究会Special adviser Diego González Rivas先生からのメッセージ

閉会の辞

閉会

この研究会は第75回胸部外科学会定期学術集会の関連研究会です

# テーマ 1

## 胸腔鏡技術認定制度と関連した演題

ヒヤリハットから学んだこと  
右肺上葉切除術での安全な手技の確立

座長：佐藤 寿彦      千葉 真人

演題名：単孔式肺葉切除を安全に簡単に施行する工夫

演者：佐藤寿彦

所属：福岡大学呼吸器乳腺内分泌小児外科

JUVIG が設立されて 4 年余りが経過し単孔式肺葉切除術は今日の日本では導入期を脱し受容期に入ったと考えられる。単孔式肺葉切除術は展開の方法、剥離操作に独特のコツが必要であり、先ほど行われた第一回の JACS 安全技術認定審査では全体の合格率 70.1%に対して単孔式肺葉切除術は 33.3%にとどまっている。JUVIG の設立趣旨はまず『安心して安全な単孔式胸腔鏡手術を確立し普及させること』であり、一層の受容と普及を図るために単孔式肺葉切除を安全に施行するための課題、そして工夫について皆様と一緒に考えたい。

演題名：当科における単孔式胸腔鏡下右肺上葉切除術

演者：後藤英典

所属：埼玉病院 呼吸器外科

当科の uVATS では右利き術者は患者右に scopist は対側に立つ。単孔は 4cm で右上葉切除では中腋窩線やや背側の第 6 肋間に置く。PA 上幹、PVS、上葉気管支とは十分距離が取れ stapler での処理は難しくない。他の細径血管は sealing device も使用、胸腔内操作は曲り吸引管と bipolar 鉗子で行っている。この位置からは、肺門背面、葉間面から PA 沿いに PVS 裏の上中葉間、#11s から 2ndCarina の経路が一望でき貫通操作が両方向から可能なため葉間処理は容易となった。奇静脈弓下から上縦隔下部へも到達でき、全面癒着や胸壁浸潤癌の肺門処理にも対応できている。単孔に限らず、安全のためには適切な層で剥離・切離を進めることが重要であり、結果として郭清を含め多孔式と同等の手術が実践できる。

演題名：単孔式右上葉切除術における Pitfall

演者：田根慎也

所属：神戸大学大学院医学研究科外科学講座呼吸器外科学分野

単孔式胸腔鏡手術が本邦に導入されて以来、手術器具の改良や手術手技の進歩によって、その普及はめざましいものがある。特に、右上葉切除術においては、不全分葉の有無によらず Fissureless approach を行うことが多く、他の術式と比較して最も定型化している術式であると考えられる。しかしながら、その手術手順の際、思わぬ Pitfall に陥ることがあり、そのメルクマールとなる注意点が存在する。今回、①血管処理、②気管支処理、③葉間切離の各々のパートでの陥りやすいポイントを、自験例を交えながらビデオ供覧し、これらを留意することによって、更に標準化された手術手技の確立につなげていきたい。

演題名：安全技術認定制度を見据えた胸腔鏡下肺癌手術における当科の取り組み

演者：吉田周平

所属：金沢大学 呼吸器外科

2021 年度より胸腔鏡安全技術認定制度が導入・開始された。単孔式 VATS におけるアジアや欧州で主流の手技では、超音波凝固切開装置や吸引管を多用した剥離操作が中心で、本邦で行われてきた血管鞘を剥離して行う血管処理や、層構造を利用したリンパ節郭清は行われない傾向にある。片手操作により Energy device や Stapler の先端確認や、肺血管に対する過緊張を避けた愛護的操作が不十分となりやすい。我々は単孔式 VATS においても開胸・hybrid・多孔式と同様な手術操作を行うことを心がけており、安全性/根治性を担保でき教育面でも有用と考えている。



演題名：胸腔鏡安全技術認定を振り返って

演者：日野弘之

所属：独立行政法人 国立病院機構高知病院 呼吸器外科

当院では単孔式胸腔鏡手術を 2019 年 12 月に導入し、2 年 6 か月間で肺癌に対する解剖学的肺切除（区域・葉切除）を 107 例施行した。そして第 1 回胸腔鏡安全技術認定に合格することができた。右上葉切除に関しては、右第 4 肋間前中腋窩線に約 4cm の開胸創を置く前方アプローチで、Energy device はリガシュアメリーランドタイプを使用している。経験数は少ないが、認定ビデオを振りかえってみるに、non-grasping technique だけでなく、曲がり鑷子や直角鉗子を用いた剥離で、血管周囲、肺門リンパ節郭清、気管支背側などの剥離を慎重に行えたのが有効と考えられた。認定に使用した動画を供覧する。

演題名：胸腔鏡安全技術認定制度に提出した2例の検討

演者：金田浩由紀

共同演者：中野隆仁

所属：関西医科大学総合医療センター 呼吸器外科

胸腔鏡安全技術認定では単孔式の合格率が低いと報告されている。専門医3回以上更新で申請した術者1の症例1と、専門医1回更新で申請した術者2の症例2の動画を題材に考察を行う。症例1は、cT2aN1M0、ND2a-2、2時間31分、出血量70ml。症例2は、cT1bN0M0、ND2a-1、2時間9分、出血量10ml。

当院では多孔式と同様、背側肺門部-葉間の剥離から単孔式右上葉切除を行っている。多孔式に比べた困難な手技、1) 背側肺門部の視野の確保と#11sLNのサンプリング、2) 上下葉間切離のための葉間からのトンネル作成、3) 上中葉間切除の際の自動吻合器の挿入位置の確認、について検討する。

演題名：U-VATS での当院の工夫

演者：青柳美穂

共同演者：水上泰、安達大史

所属：北海道がんセンター

【背景】当院では 2017 年より U-VATS 肺部分切除から導入し、2018 年には肺区域切除、2019 年には肺葉切除と徐々に適応を拡大してきた。現在では RATS 以外は原則 U-VATS での手術を行っている。

【方法・工夫】当院の U-VATS の創位置は上・中葉病変では第 4 肋間前腋窩線上、下葉病変では第 5 肋間中腋窩線上に 3-4 cm の incision を作成する。肋間の選択は開胸移行に配慮し、創の位置は M-VATS よりも背側におく。術者は grasping technique で手術を行うが、サクシオンを使用しないため、胸腔内の湿度が高く、5 mm scope が曇りやすくなってしまう欠点がある。そこで、当院では 12 Fr サクシオンカテーテルをウインドリトラクターのわきから胸腔内に挿入し、排気する方法を行い報告している。その他、当院で行っている工夫を提示する。

演題名：単孔式手術でのヒヤリハット

演者：町野隆介<sup>1,2</sup>

共同演者：平原正隆<sup>2</sup> 松本桂太郎<sup>1</sup> 朝重耕一<sup>1</sup> 土肥良一郎<sup>1</sup> 小畑智裕<sup>1</sup> 溝口聡<sup>1</sup>

市川宏美<sup>1</sup> 永安武<sup>1</sup>

所属：1 長崎大学腫瘍外科、2 長崎みなとメディカルセンター呼吸器外科

単孔式胸腔鏡下手術（U-VATS）でひとたび出血すると、胸腔鏡下手術（VATS）と比較し、さらに視野確保や出血コントロールが困難である。症例1：右上葉切除；上幹肺動脈切離後、上葉気管支を前方からトンネリングし、トンネルを広げるため鉗子を開いた際に出血。圧迫で一時止血を得た上で上葉気管支を切離後に止血を行った。上葉気管支前方の気管支動脈からの出血であった。症例2：右中葉切除；A4、V4+5切離、中下葉間形成後、中葉気管支を切離したところ出血。末梢側PV断端からの出血であり、断端が引っ込んでしまったため、出血点ごと鉗子で把持し一時止血を得た上で手術を続行した。U-VATSでは出血させないための先手の確実な血管処理が重要である。

演題名：右肺上葉切除における上中葉間分葉不全処理時のナイトメア症例：単孔式における安全確実な手術の工夫

演者：溝淵輝明

所属：恩賜財団千葉県済生会習志野病院 呼吸器外科

症例は 71 歳女性、術前診断は右上葉肺腺癌 c-T1aN0M0。2020 年 X 月、右第 6 肋間前腋窩線上に創長 3.9cm、Alexis® Wound Retractor XXS を用いて単孔式胸腔鏡下右上葉切除を開始した。通常通り、前方から肺動静脈を剥離・テーピングし、いわゆる 3 葉合流部付近の肺動脈を剥離。上中葉分葉不全処理のため、前方からつるりん鉗子®を挿入、剥離時に分葉不全裏面からの出血を認め、止血に難渋した。台北和信治癌中心醫院、劉家全医師にビデオレビューをお願いし、改善した手術方法につき報告する。

## テーマ 2

# 将来に向けた単孔式手術の経験

RATS 単孔式、区域切除など

座長：須田 隆      本間 崇浩

演題名：単孔式手術の現状と今後の展望

演者：須田 隆

共同演者：長野裕充、根木隆浩、栃井大輔、栃井祥子

所属：藤田医科大学岡崎医療センター 呼吸器外科

単孔式手術は日本でも徐々に広まりつつある。患者の負担の最も少ない手術法として今後標準手術になりうる手術手技である。現在の問題点は手技の操作性の制限によって手術の精度や安全性が保たれないのでは無いかという危惧があることである。これらは単孔式手術専用の器具の開発や手技の発展によって解決される。単孔式手術が患者にメリットのある手技である限り、単孔式ロボット手術など新しい技術・器具の発展により単孔式手術はより広まっていくものと考えている。

演題名：自然気胸に対する剣状突起下单孔アプローチで施行したブラ切除の当院導入の

1 例

演者：八木 優樹

所属：NTT 東日本札幌病院 呼吸器外科

自然気胸に対して剣状突起下单孔アプローチでブラ切除を施行したので報告する。当院呼吸器内科で両側気胸を経過観察されていたが、右肺は自然治癒し、左肺の虚脱が残存していたため、手術目的に当科紹介となった。右肺の気胸再燃リスクも考慮し、右気胸再燃の兆候があれば即座に胸腔ドレナージあるいは術野から開胸できるよう仰臥位剣状突起下アプローチで手術を行うこととした。剣状突起下に 3cm 横切開をおいて手術を施行。舌区に存在したブラ切除を行った。手術時間は 45 分、出血は少量であった。術後 1 日目に胸腔ドレナージを抜去、術後 2 日目に退院となった。当科パス定期入力の鎮痛剤内服で、術後 NRS スコアは終始 0 であった。



演題名：単孔式複雑区域切除におけるアプローチ肋間と区域間切離の工夫

演者：本山秀樹

共同演者：足立泰志 中西崇雄 大政貢

所属：神戸市立西神戸医療センター 呼吸器外科

当院では現在までに 31 例の単孔式胸腔鏡下複雑区域切除術を施行しているが、単孔式では気管支および区域間の切離が困難となるため術式ごとに工夫を加えている。上葉の区域切除は第 5 肋間前腋窩線または第 6 肋間中腋窩線上、肺底区領域の区域切除は第 7 肋間前もしくは第 8 肋間中腋窩線上よりアプローチし、血管および気管支断端を糸で牽引し視野展開と区域間切離のメルクマールに使用することで正確な区域間切離が可能であった。本術式における手術時間は 162 分(103-264 分),出血量は 5ml(2-113ml),術後肺瘻は 0 日(0-4 日)であった。当院における単孔式複雑区域切除術のアプローチおよび区域間切離方法を提示する

演題名：MICS用 DeBacky 鑷子と Monopolar 電気メスによる単孔式胸腔鏡下肺区域  
切除

演者：佐野由文

共同演者：大谷真二、坂尾伸彦、藻利 優、桐山洋介、小倉史也、林 龍也、

武田将司、植木貴史

所属：愛媛大学大学院医学系研究科 心臓血管・呼吸器外科学

現在広く行われている単孔式胸腔鏡下手術（UniVATS）は、左手に曲の吸引管、右手に Energy device をもって進めていく手技が基本となっているが、われわれの行っている手技は、基本的に術者の左手で MICS 用 DeBacky 鑷子、右手で Monopolar 電気メスを使用することによってより繊細な手術を目指している。

当科においては、2013 年 4 月より UniVATS 肺部分切除を開始、2016 年 12 月より UniVATS 肺葉切除術、2020 年 2 月より UniVATS 肺区域切除術を開始した。

今回はわれわれの行っている UniVATS 肺区域切除を、動画を中心にお見せしたい。

演題名：区域間腫瘍に対して、RFID マイクロチップ留置後に実施した単孔式左下葉区域切除術

演者：本間崇浩 1

共同演者：鈴木潤 2

所属：黒部市民病院 呼吸器外科 山形大学 第二外科

【症例】51 歳女性。両側下葉肺腺癌と診断され、右下葉切除と術後化学療法を施行された。S6/S10 区域間に位置した左下葉病変には効果を認めず、切除方針となった。両側下葉切除術は呼吸不全リスクが高く、必要最小限の切除術が望ましいと判断した。腫瘍位置の把握と surgical margin 確保のために RFID マイクロチップ法を採用した。術前日、気管支鏡下に SuReFIInd®を留置し、翌日に単孔式左 S6+10a 区域切除術を行った。経過良好で、術後 4 日目に退院した。最終病理診断で surgical margin が保たれていることを確認した。

【まとめ】本マーキング法は呼吸機能低下を最小限に留めたい小型肺腫瘍症例に有効で、単孔式でも実施可能と考えられた。

演題名：術前操作でマーキングが完遂する VAL-MAP の単孔式胸腔鏡下手術における

利点－S7+S10 区域切除例における考察

演者：叢 岳

所 属：東京大学医学部附属病院 呼吸器外科

単孔式胸腔鏡下(uVATS)肺区域切除は、区域間面や腫瘍の切離マージンの確認が困難で、含気虚脱ラインの作成も視野の妨げとなるため、手術補助のマーキングの必要性が高い。

S7/S10 間の腫瘍に対し、VAL-MAP を併用した uVATS S7+S10 区域切除を行った。V6 が指標の S6/S10 間と違い、S7/S8 間や S9/S10 間は不明確でマーキングが有用である。

しかし、特に S10 の操作で B10/A10 の同定と切離のために区域面形成を先行する場合、血管切離に先んじて区域間を確認する必要があるため、その時点で視認できるマーキングが必要となる。本症例は B7b/B10b に VAL-MAP を行い指標とした。

下葉区域切除や分葉不全症例など、区域間形成が血管切離に先行して必要と予想される場合、術前操作でマーキングが完遂する VAL-MAP は特に有効と考える。

CV

(登壇順)

小田 誠



## 学歴

昭和 59 年 3 月 金沢大学医学部卒業

平成 1 年 3 月 金沢大学大学院医学系研究科博士課程終了  
学位

博士（医学）（金沢大学甲第 896 号）

## 職歴

昭和 59 年 5 月 金沢大学医学部附属病院医員（研修医）

昭和 60 年 2 月 石川県立中央病院医員（研修医）

昭和 60 年 4 月 金沢大学大学院医学系研究科

平成 1 年 4 月 石川県立中央病院外科医師

平成 1 年 10 月 金沢大学医学部附属病院医員（第一外科）

平成 2 年 1 月 金沢大学医学部附属病院助手（第一外科）

平成 9 年 4 月 金沢大学医学部講師（外科学第一）

平成 13 年 1 月 金沢大学講師大学院医学系研究科

平成 16 年 8 月 石川県立中央病院 診療部長 呼吸器外科  
（平成 18 年 4 月 ガン診療センター長兼務）

平成 18 年 7 月 金沢大学附属病院（呼吸器外科）臨床教授 兼 金沢大学大学院医学系  
研究科（心肺病態制御学講座）准教授

平成 26 年 2 月 ニューハート・ワタナベ国際病院 院長兼呼吸器外科部長

平成 28 年 1 月 新百合ヶ丘総合病院 呼吸器センター長 兼 呼吸器外科 統括部長  
（令和 3 年 4 月 昭和大学医学部外科学客員教授併任）

## 資格

外科専門医、日本外科学会指導医、呼吸器外科専門医、日本呼吸器外科学会指導医、  
日本胸部外科学会指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡  
指導医・専門医など

森川 利昭 1952年生



昭和 52 年 3 月 長崎大学医学部卒業  
昭和 52 年 6 月 国立長崎中央病院  
(現国立病院機構長崎医療センター) 研修医  
昭和 54 年 6 月 国立がんセンター病院  
(現国立がんセンター中央病院) 外科レジデント  
昭和 57 年 6 月 榊原記念病院心臓外科  
昭和 58 年 4 月 国立療養所松戸病院外科 (現国立がんセンター東病院) 医員  
昭和 60 年 2 月 北里研究所病院外科医長  
平成元年 7 月 北海道恵愛会南一条病院呼吸器外科主任医長  
平成 9 年 4 月 北海道大学医学部第二外科講師  
平成 16 年 4 月 北海道大学大学院腫瘍外科助教授  
平成 17 年 7 月 東京慈恵会医科大学呼吸器、乳腺・内分泌分野担当教授、  
附属病院呼吸器外科診療部長  
平成 30 年 3 月 上記定年退職  
平成 30 年 4 月 - 東京慈恵会医科大学客員教授  
平成 30 年 5 月 - 健貢会 総合東京病院呼吸器外科

学位：医学博士（北海道大学）

専攻分野：呼吸器外科，特に肺癌手術・胸腔鏡手術，生体接着剤、医療機器開発

専門医：日本外科学会 専門医、日本呼吸器外科学会 専門医

学会：日本外科学会 特別会員、日本内視鏡外科学会 名誉会員

日本呼吸器外科学会 特別会員、日本肺癌学会 特別会員

日本コンピュータ外科学会 評議員、日本医工ものづくりコモンズ理事

単孔式胸腔鏡手術研究会 会長

東京慈恵会医科大学客員教授

健貢会 総合東京病院呼吸器外科部長、気胸センター長

平井恭二 (ひらいきょうじ)

生年月日：1964年11月4日

履歴：

1990年 日本医科大学付属病院第一病院第2外科入局

1992年 中野俊成病院外科 派遣

1997年～1999年 米国シンシナティ大学 留学：Visiting scientist

1999年 日本医科大学付属病院第2外科 助教

2006年 日本医科大学付属病院第2外科 講師

2006年 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管・呼吸器外科 講師

2009年 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管・呼吸器外科  
准教授・呼吸器センター副医長

2013～2018年 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科部長・病院教授

2019年4月～ 同上 呼吸器センター長・呼吸器外科部長・病院教授

現在に至る



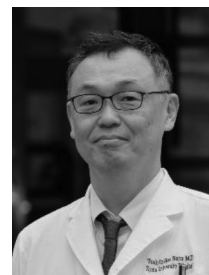
平井恭二の紹介

- ・1964年大阪府生まれ
- ・1990年日本医科大学卒業
- ・1998-2000年 米国シンシナティ大学で心虚血再灌流障害の研究
- ・日本での単孔式胸腔鏡手術の最多手術症例数を経験
- ・2015年～2021年 Asian Single Port VATS symposium Faculty member
- ・2015年第1回単孔式胸腔鏡手術ワークショップ開催に携わる
- ・2019年単孔式胸腔鏡手術研究会の設立に携わる。
- ・単孔式胸腔鏡手術研究会の常任幹事
- ・単孔式胸腔鏡手術に関する英語論文 14 (筆頭 10)
- ・単孔式胸腔鏡手術に関与する海外ジャーナルの査読総数 30以上



氏 名：佐藤 寿彦（さとうとしひこ）

生年月日：1970 年 9 月 29 日



福岡大学医学部外科学講座呼吸器・乳腺内分泌・小児外科教授

平成 9 年 3 月 京都大学医学部医学科卒業

平成 17 年 4 月 1 日 京都大学医学部医学研究科博士課程（博士（医学））

（平成 21 年 3 月 31 日まで）

平成 21 年 4 月 1 日 京都大学医学部附属病院呼吸器外科 助教

（平成 21 年 3 月 31 日まで）

平成 26 年 8 月 1 日 京都大学医学部附属病院 准教授

（平成 31 年 4 月 30 日まで）

令和元年 5 月 1 日 福岡大学医学部呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 准教授

（令和 3 年 3 月 31 日まで）

令和 2 年 4 月 1 日 福岡大学病院「福岡大学最先端ロボット手術センター」センター長

（現在に至る）

令和 3 年 4 月 1 日 福岡大学医学部呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 教授

（現在に至る）

取得資格： 日本外科学会専門医・指導医

日本呼吸器外科学会専門医

日本呼吸器外科認定ロボット支援手術プロクター認定医

所属学会等：日本外科学会

日本呼吸器外科学会

日本胸部外科学会

日本呼吸器内視鏡学会

日本内視鏡外科学会

日本肺癌学会

日本移植学会

日本乳腺学会

日本コンピュータ外科学会

千葉 真人



2007年(平成19年)山形大学医学部卒業

2007年(平成19年)～2009年(平成21年)

山形大学医学部附属病院で初期研修

2009年(平成21年)～2011年(平成23年)

山形県立中央病院で後期研修

2011年(平成23年)～2013年(平成25年)

愛知県がんセンター中央病院 呼吸器外科レジデント

2013年(平成25年)～2015年(平成27年)

愛知県がんセンター中央病院 呼吸器外科シニアレジデント

2018年(平成30年)3月 近畿大学医学部医学系大学院研究課程卒業

2015年(平成27年)4月～近畿大学医学部 呼吸器外科助教

2017年(平成29年)7月 上海肺科医院で研修

2018年(平成30年)4月 単孔式胸腔鏡下手術(Uniportal VATS)を開始

2019年(平成31年)2月 スペインバレンシアで単孔式胸腔鏡下気管支形成術を研修

2019年(令和元年)6月 ドイツポツダムで単孔式胸腔鏡下手術トラブルシューティングを研修

2021年(令和3年)4月～近畿大学医学部 呼吸器外科医学部講師

所属学会：日本外科学会、日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会、日本肺癌学会、日本内視鏡外科学会、日本麻酔科学会

資格：外科専門医、呼吸器外科専門医、麻酔標榜医

氏名 後藤英典

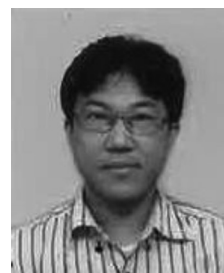
生年月日（年齢） 1981年6月11日（41歳）

所属施設・所属科

国立病院機構 埼玉病院 呼吸器外科

同住所 埼玉県和光市諏訪2-1

同 TEL 048-462-1101



職業歴

2007年 福井大学卒業

2007年～2009年 川崎社会保険病院勤務

2009年～2013年 東邦大学大森病院勤務

2013年～2015年 がん研有明病院勤務

2015年～現所属病院勤務

資格

日本外科学会専門医

呼吸器外科専門医

気管支鏡専門医

がん治療認定医

田根 慎也



最終学歴：2006年3月 神戸大学医学部卒業

職歴：

2006年4月 住友病院初期研修医

2008年4月 兵庫県立がんセンター 呼吸器外科専攻医

2010年4月 神戸大学病院呼吸器外科 医員

2014年4月 神戸大学病院呼吸器外科 特定助教

2015年11月 米国ピッツバーグ大学胸部外科留学

2017年11月 兵庫県立がんセンター 呼吸器外科医長

2021年4月 大阪府済生会中津病院呼吸器外科 医員

2022年4月 神戸大学病院呼吸器外科 助教

資格：

医学博士 外科専門医 呼吸器外科専門医・評議員 胸腔鏡安全技術認定医

ロボット支援下手術 Da Vinci 認定資格 がん治療認定医

受賞歴：

2013年 神緑会研究助成金

2014年 Grillo Award in 22st European Society of Thoracic Surgeon.

2015年 上原記念財団海外留学助成金

2017年 第118回日本外科学会トラベルグラント

2019年 Travel grant in 44th Congress of Korea Society of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons

2022年 ESTS-JACS Award in 30st European Society of Thoracic Surgeon.

吉田 周平

〒920-8641 石川県金沢市宝町 13-1 金沢大学 呼吸器外科

TEL: 076-265-2354 e-mail: shu.yoshi0216@gmail.com

現職

金沢大学 呼吸器外科 助教, 医局長 (2021年8月～)

職歴

2005年03月 順天堂大学 医学部卒

2005年04月 金沢大学附属病院 卒後臨床研修センター

2007年04月 金沢大学 心肺・総合外科 入局, 医員

2014年04月 金沢大学附属病院 呼吸器外科 医員

2014年07月～同上 助教

学会資格

外科専門医, 指導医

呼吸器外科専門医, 評議員

Certificate of da Vinci System Training (Console Surgeon)

気管支鏡専門医

消化器外科専門医, 指導医・消化器がん外科治療認定医

消化器内視鏡専門医

肺がん CT 検診認定医

がん治療認定医



日野 弘之

1991年3月～ 徳島大学医学部医学科 卒業

1991年4月～ 徳島大学医学部第2外科 入局

1991年12月～ 関連施設で研修後、

1995年4月～ 徳島大学医学部附属病院第2外科 勤務

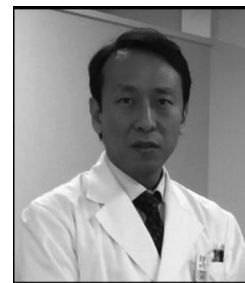
1998年4月～ 旧国立東徳島病院 外科 勤務

2000年10月～ 現 国立病院機構高知病院 呼吸器外科 勤務

現在に至る



金田 浩由紀 (かねだ ひろゆき)



平成 9 年 5 月 関西医科大学 胸部心臓血管外科学講座 入局

平成 11 年 4 月 静岡日本赤十字病院 外科

平成 13 年 4 月 関西医科大学大学院 医学研究科博士課程

平成 14 年 4 月 カナダ University of Toronto,  
Toronto General Hospital 留学

平成 17 年 3 月 医学博士取得

平成 17 年 4 月 関西医科大学附属病院 呼吸器外科 スタッフ

平成 28 年 3 月 関西医科大学総合医療センター 呼吸器外科 部長

平成 28 年 8 月 関西医科大学総合医療センター 臨床倫理・合意形成支援センター長

平成 30 年 4 月 関西医科大学総合医療センター 医療安全管理部 部長

#### 主な資格、加入学会

日本外科学会（認定医、外科専門医、外科指導医）、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会（呼吸器外科専門医、評議員）、日本内視鏡外科学会、近畿外科学会（評議員）、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会（評議員、理事）、日本呼吸器内視鏡学会（気管支鏡専門医、気管支指導医）、日本肺癌学会、日本臨床倫理学会、日本生命倫理学会、医療の質・安全学会、医療事故・紛争対応研究会、等

青柳 美穂（あおやぎ みほ）

札幌医科大学卒業後、2016年に札幌医科大学呼吸器外科に入局。  
2018年には札幌医科大学附属病院呼吸器外科 助教となり、  
関連病院で修練し、2022年現在は北海道がんセンター 呼吸器外科  
医員として勤務している。





## 町野隆介 略歴

2006年3月 長崎大学医学部卒業  
2006年4月-2008年3月 長崎大学病院初期臨床研修医  
2008年4月-2009年3月 大分県立病院後期臨床研修医  
2009年4月-2010年3月 長崎大学腫瘍外科医員  
2010年4月-2012年3月 国立病院機構長崎医療センター 呼吸器外科  
2012年4月-2013年5月 愛媛県立中央病院 呼吸器外科  
2013年4月-2017年3月 長崎大学大学院医歯薬総合研究科  
2017年4月-2020年3月 国立病院機構長崎医療センター 呼吸器外科  
2020年4月-2021年9月 長崎大学腫瘍外科 助教  
2021年10月-2022年3月 長崎みなとメディカルセンター呼吸器外科  
2022年4月-現在 長崎大学腫瘍外科 助教



### 資格

医学博士、日本外科学会専門医、日本呼吸器外科学会専門医、評議員、胸腔鏡安全技術認定

### 所属学会

日本外科学会、日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会、日本内視鏡外科学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本気管食道科学会、日本再生医療学会

### 受賞

第68回日本気管食道科学会ポスター賞：Bio-3D Printer Regenova を用いた自己細胞由来人工気管の作成

第121回日本外科学会 Young Investigator's Award：バイオ3Dプリンターを用いた管腔臓器再生の試み

Name: 溝渕輝明

Date of Birth: 1971/2/11



学歴及び職歴

- 1989年3月31日 高知県 私立土佐高等学校普通科 卒業
- 1995年3月23日 千葉大学医学部 卒業
- 1995年5月19日 研修医 (千葉大学医学部附属病院 肺癌研究施設外科)
- 2001年3月1日 リサーチフェロー  
(米国インディアナ大学医学部免疫生物学: トロント大 安福 Dr.の後任)
- 2003年9月30日 千葉大学大学院医学研究院 博士課程 (外科系) 修了
- 2009年10月1日 千葉大学 助教 医学部附属病院 (呼吸器外科)
- 2012年4月1日 千葉大学 講師 医学部附属病院 (呼吸器外科)
- 2016年4月1日 部長 兼 副センター長  
(公益財団法人 日産厚生会玉川病院気胸研究センター)
- 2018年7月1日 医師 (都立墨東病院 胸部心臓血管外科)
- 2019年4月1日 部長 (恩賜財団済生会 千葉県済生会習志野病院 呼吸器外科)
- (現在まで)

須田 隆（すだ たかし）

生年月日：1967年9月8日生（愛知県名古屋市）

1986.3 私立東海高校卒業

1992.3 藤田医科大学（藤田保健衛生大学）医学部卒業

1992.3 藤田医科大学病院 研修医

1994.4 国立療養所中部病院 研修

1995.4 藤田医科大学胸部外科医師

1998.4 Washington University School of Medicine Division of Cardiothoracic Surgery  
Research Fellow . (米国、セントルイス)

2001.4 藤田医科大学胸部外科学 講師

2008.4 藤田医科大学呼吸器外科学 准教授

2017.4 藤田医科大学呼吸器外科学 臨床教授

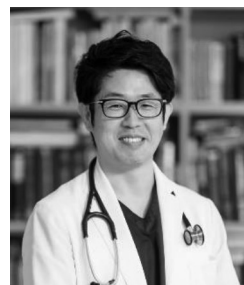
2020.4 藤田医科大学岡崎医療センター 副院長 呼吸器外科教授

2020.7.1 藤田医科大学医学部呼吸器低侵襲外科学 講座主任教授



本間 崇浩

2004年 富山医科薬科大学 医学部卒業  
2004年 富山大学附属病院 初期研修医  
2006年 富山大学 第1外科 入局  
2012年 カナダ マギル大学 胸部外科、トロント大学 胸部外科  
2013年 新潟県厚生連上越総合病院 呼吸器外科 部長  
2016年 富山大学 第1外科（呼吸器外科）副診療科長 診療講師 助教、富山大学附属  
病院 専門医養成支援センター 副センター長  
2022年 黒部市民病院 呼吸器外科 部長



<資格等>

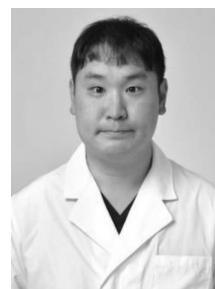
博士（医学）

日本外科学会外科 専門医、指導医  
日本呼吸器外科学会 専門医、胸腔鏡安全技術認定医  
日本呼吸器内視鏡学会 専門医、指導医  
日本呼吸器学会 専門医、指導医  
日本胸部外科学会 JATS-NEXT コアメンバー  
日本がん治療認定医 肺がん CT 検診認定医 da Vinci certificate ドクター  
京都大学 Foundation Course for Medical Education Member  
富山大学 非常勤講師

八木 優樹

NTT 東日本札幌病院 外科

[yukiyagi617@gmail.com](mailto:yukiyagi617@gmail.com)



#### 学歴

2012年 北海道大学医学部医学科 卒業

2017年 北海道大学医学院 入学(在学中)

#### 職務経験

2012年 JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 初期研修医

2014年 北海道大学病院 循環器・呼吸器外科

2015年 王子総合病院 外科

2016年 札幌南三条病院 呼吸器外科

2017年 北海道大学病院 循環器・呼吸器外科

2018年 恵佑会札幌病院 呼吸器・乳腺外科

2021年 北見赤十字病院 呼吸器外科

2022年 NTT 東日本札幌病院 外科

#### 専門医

2019年 外科専門医

2023年予定 呼吸器外科学会専門医

本山 秀樹

略歴

2003年 産業医科大学 卒業

2003年 九州厚生年金病院研修医

2005年 京都大学医学部附属病院 呼吸器外科後期研修医

2005年 静岡市立静岡病院後期研修医、医員

2009年 滋賀県立成人病センター医員

2015年 京都大学大学院医学研究科呼吸器外科学博士課程修了

2015年 京都大学医学部附属病院呼吸器外科 助教

2018年 神戸市立西神戸医療センター医長

2018年12月より単孔式胸腔鏡手術を開始



氏名 佐野 由文



職歴 昭和 60 年 4 月 岡山大学医学部第 2 外科医員  
昭和 60 年 9 月 高知県、岡山県の市中病院にて外科研修  
平成元年 9 月 岡山大学医学部第 2 外科医員  
(手術はほとんど全て助手)  
平成 3 年 9 月 岡山大学医学部第 2 外科研究生  
以後留学までラットの肺移植研究に従事。  
人間に対する手術はせず  
平成 7 年 7 月 米国 Cleveland Clinic Foundation にて Histocompatibility の  
研究および肺移植臨床研修  
平成 10 年 12 月 岡山大学医学部第 2 外科医員  
この数か月後初めての開胸肺葉切除+ND2a-2 手術を執刀  
平成 11 年 10 月 岡山大学大学院医歯学総合研究科腫瘍・胸部外科助手  
このころ初めて Hybrid VATS 肺葉切除+ND2a-2 手術を執刀  
平成 19 年 5 月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腫瘍・胸部外科講師  
平成 21 年 10 月 国立病院機構岩国医療センター胸部外科部長  
平成 22 年 7 月 愛媛大学医学部附属病院呼吸器センター長、准教授  
10 月 初めて Complete VATS (3-Port) 肺葉切除+ND2a-1 執刀  
平成 26 年 9 月 初めて Robotic VATS 肺葉切除+ND2a-1 執刀  
平成 31 年 6 月 初めての Uniportal VATS 肺葉切除+ND2a-1 執刀  
受賞歴 平成 9 年 The American Society of Transplantation, Young Investigator Award  
令和元年 27th Meeting of the European Society of Thoracic Surgeons,  
ESTS-MEDTRONIC PRIZE (Best Presentation Award)

Yue Cong

7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8655, Japan.

Phone: (+81)-80-6612-1706

E-mail: [congi-sur@h.u-tokyo.ac.jp](mailto:congi-sur@h.u-tokyo.ac.jp)



#### Work Experience

3/2022 - present

-Department of thoracic surgery, Tokyo University

4/2018 - 3/2022

-Department of Minimally Invasive Surgical and Medical Oncology, Fukushima Medical University

-Department of Thoracic Surgery, Southern Tohoku General Hospital

4/2014 – 3/2018

-Department of Thoracic Surgery, Kameda medical Center

4/2012 - 3/2014

-Tone Central Hospital

#### Education

3/2012 Graduated from Gunma University School of Medicine